

優秀賞
(子どもの部)

「平和に感謝」

荒川区立汐入東小学校六年

奥田 陽和

柳田先生こんにちは。

先生は、広島に原爆がおとされた当時のことを覚えていますか。

私は、「うわさごと」という絵本を読んでうわさにながされないことと広島原爆についてあらためて考えました。

「うわさごと」という絵本は、主人公のおじいちゃんの子どもたちの話で、お兄ちゃんのクラスに広島から転校してきたケンゴのことを、「ゲンシ

病がうつる」とうわさを聞いたみんながうわさを信じ、ケンゴをさける話です。

私は今まで、たくさんのおわさを聞きました。そして、それを大体信じていました。

しかし、新型コロナウイルスが広がって、たくさんのおわさが流れました。

そのとき、たくさんの人がデマだと知らずに信じ、デマだと分かったあともたくさんのおいしめなどが続きました。それを見て、私は、本当か、うそかしっかりみわけなきやいけないなと思いました。

広島原爆については、今までは、そのときの広島の人のお命や、広島のおいしなどを、うばうものだと思っていました。

しかし、それだけでなく、広島から、転校してき

た子どもへのいじめなどもあり、やっとの思いで
生きのびた人のその後も苦しめるのだと思い、あ
らためて、おそろしいものだなと思いました。

しかし、原子爆弾のおそろしさをしている日
本だからこそ、つかうことをとめられるのだと思
います。

なので広島原爆から75年たった今も、原子爆
弾のおそろしさを伝えている人の話を聞きそれを
活かして、次の世代に伝えたり、平和なことに感謝
しようと思います。

柳田邦男先生からのメッセージ

奥田さんが取り上げた絵本「うわさごと」は、過
去においても現在においても、人間社会のなかで、
何とか解消しなければならぬのに、今でもいろ

いろな事件や病気をめぐって起こる偏見（へんけ
ん）の問題について語りかけているのですね。

広島と長崎に原爆が投下され、二つの都市が一
瞬にして炎上し、大変な数の人々が放射線と火災
によって命を絶たれたのは、75年以上前のこと
です。しかも放射線をあびた人々は、生き残っても、
原爆症と呼ばれるさまざまな病気に苦しみました。
被害はそれだけではありませんでした。原爆の
放射線をあびた人は、感染症にかかったわけでも
ないのに、長年にわたって、「うつる」というデマ
が広く信じられたため、被爆者とその家族が、就職
や結婚ができなくなったり、子どもがいじめられ
たりすることがしばしば起こりました。

このように科学的には根拠のない偏見や差別は、
原爆だけでなく、いろいろな形で起こってきまし

た。10年前の東日本大震災による福島までの原子力発電所の事故の後、放射性物質に汚染された地域の住民たちは、県内外の広い範囲の各地に避難しました。ところが、避難してきた家族の子どもたちが、学校や地域で、放射線が「うつる」というデマを信じた地域の子どもたちから、いじめられたり仲間はずれにされたりする例が、各地で発生しました。

昔は、コレラ、ペスト、ハンセン病、結核などの感染症にかかった人とその家族が、地域の人々からおつき合いをされなくなるという差別を受けるのは当たり前のようになっていました。

奥田さんが、新型コロナウイルスの流行のなかで、多くの人々がデマを信じて買いしめに走ったことも、同じような出来事だと気づき、人々に大き

な影響を与える「うわさ」(情報)が広がっている時には、「本当かうそかしっかりみきわけなきゃいけない」と思うようになったのは、とてもだいじな気づきです。

また、恐ろしい問題についての真実を見極めるには、体験した人や語り伝えている人(「語り部(ベ)」)の話を聞くことが大切だという気づきも、とてもだいじです。

六年生らしい絵本の読み方と気づきを、私は評価したいと思いました。